

水島空襲体験記

片岡治恵さん

倉敷市連島町鶴新田は、私の生まれ育った故郷です。江戸末期の文化文政から弘化開を最後に干拓され、360町歩余りの土地に、3代前の親子が各方面から移住して400戸ほどの戸数があり、殆どが「レンコン」「米麦」「野菜」を主体とした農家でした。東は亀の形をした亀島山が見え、南西には瀬戸内海と高梁川河口を土手でさえぎり、夏は海水浴や潮干狩り、北東の大平山には笹取神社があり、春は桜見物も楽しみ、農家としては地の利や資源に恵まれた静かな田園地帯でした。

昭和15年4月、私は弘化尋常小学校へ入学しました。その時は、教科書も兄達が使った本と同じでしたが、2年生になると連島南国民学校と学校の名前も変り、教科書も新しくなりました。その年の12月8日、大東亜戦争の勃発です。3年生頃になると、運動靴や半紙が買えなくなり、習字も新聞紙に書くので本気で字の練習もできませんでした。4年生頃には、運動靴の代わりに「ワラジ」を母がせめて女の子らしくと、赤と白の布を緒に付けて作ってもらいました。朝履いて下駄箱に入れておくと帰る時には盗られて、履いて帰ることはできませんでした。またこの頃から学芸会も運動会もなくなり、農繁期の田植えや稲刈りなど、出征兵士の家へ手伝いに行かされました。5年生になると、朝新聞配りを強制的にさせられ、もちろん勤労奉仕、ゴルフ場あとや土手の下等を開墾して、さつま芋や小麦等を植え収穫しました。その収穫した作物を生徒が食べたり、頂いたりしたことはありません。

昭和20年4月、6年生になると、毎日鋤や鎌を持って学校に行きました。教科書らしい本もなく、毎日ほとんど田や畑に出ていました。この頃から空襲警報も度々あり、ゴルフ場から小麦をかついで帰っていると、「艦載機」と言う飛行機が屋根の辺りまで下りてきて機関銃で人を撃つので、私たちは慌てて菜の花畑にかくれました。そして岡山空襲、高松空襲、福山空襲もあり、遠く離れていても空を真赤にこがし、まる

で花火を見るようでした。

昭和20年6月22日、水島の航空機製作所が空襲にあった時の事です。空襲警報が鳴るので慌てて家の前の防空壕(9)に入りました。母と弟2人と私の4人です。間もなく真上で「パンパン」と爆弾の破裂する音で、今に防空壕(8)の上に落ちるのかと気が気ではありませんでした。母は黒住教のお経をあげて祈り、弟たちも声一つあげず生きた気がしなかったと言うのはこの様な状況でしょうか。

1時間も続いたと思われる頃、爆発音も止んだので、恐る恐る防空壕(9)から出てみると亀島山の向こうでまっ黒な黒煙が続いていました。「アッ水島の航空機製作所に爆弾が投下されたのだ」、民家には異常がないと、やっと安心しました。大平山と狐島の山に高射砲(10)が設置されていて、その高射砲の破裂する音が防空壕の上で



【空襲後の航空機のエンジン部分】

したのだと分かりました。消防団の団長をしていた父が半鐘台(11)の上で見ている、高射砲が2機撃墜して黒煙をあげながら落ちていったと話していました。その後、潮干狩りに行くと爆弾の破片や機関銃の弾と思われるものがたくさんありました。

その頃は学校で弁当を食べる人は少なく、ほとんどの人が家に食へに帰りました。ご飯ではなく代用食(12)の「すいとん(13)」や「おうどん」等の食事が主体だったからです。また、「産めよ増やせよ」の時代で、5人兄弟だった私の家族も戦争中に弟2人、妹1人と3人増え、着る物も配給で自由には買えず、裸で生まれてくる弟や妹達や私達のために親の衣類を仕立て直して着せる大変な時代でした。農家で忙しいので、私は小学校の間、いつも子守りをして一人遊びができるのはお盆、お正月やお祭りの時だけでした。でも大きな農家だったので、まずい物でもおなかいっぱい食べて、ひもじい思いはしたことはありません。お腹を空かせていた子は大勢いたと思います。8月になると広島、長崎に原子爆弾が投下され、多くの方が死にました。そして8月15日、天皇陛下の玉音放送(14)

で敗戦を知りました。夏休みの宿題だった軍のためにやる干し草を持って行くと、いら
ないと言われて、「あーこれでやっと戦争が終わったんだ」とホッとしました。2学期
からは新聞配りも中止。勉強に専念できて、私にとって楽しい学校になりました。でも、
今まで上級生が行っていた修学旅行もなく、運動会や学芸会もありません。記念の卒業
写真だけが連島南国民学校に通学した証です。卒業したら⁽¹⁵⁾西ノ浦の国民学校の高等科に
入学する人が殆どですが、一部の希望者は受験して県立や私立の中学校や女学校に入学
します。そのための補習が3学期になるとありました。私は⁽¹⁶⁾玉島女学校に行きたかった
のですが、兄弟が多いので諦めていました。すると、3月に先生が、女学校を受験する
よう両親を説得に来てくれました。父は反対したのですが、私が「受験だけでもさせて。
合格しても行かないから。」と言って受験したら合格しました。父も許してくれて県立
玉島女学校の生徒になることができました。でも、それ以降も大変な戦後が続くのです。

-
- 1 文化・文政・弘化…江戸時代の元号。文化(1804～1818年)、文政(1818～1831年)、天保(1831～1845年)、弘化(1845～1848年)。連島町鶴新田地区には、開発された時期により文化開、文政開、天保開、弘化開などの小字名が残っている。
 - 2 町歩…面積の単位。1町歩 9917.36平方メートル。360町歩 3.57平方キロメートル。
 - 3 弘化尋常小学校、連島国民学校…現在の倉敷市立連島南小学校。
 - 4 ワラジ…稲わらで作られたはきもの。
 - 5 出征…軍隊に加わって戦地に行くこと。
 - 6 勤労奉仕…戦時中に学生などに課された無償の労働。
 - 7 艦載機…軍艦に搭載された航空機。
 - 8 水島の航空機製作所…三菱重工業水島航空機製作所。
 - 9 防空壕…空からの敵の攻撃に備えて地中に作った穴。
 - 10 高射砲…敵の戦闘機を撃墜するために地上に設置された火砲。
 - 11 半鐘台…火災などの報知のために設けられた見張り台。
 - 12 代用食…主食、特に米の代わりにする食品。芋類・麺類など。
 - 13 スイトン…小麦粉を水でこね、適当な大きさにちぎって、汁に入れて煮込んだもの。
 - 14 玉音放送…1945年8月15日正午、昭和天皇みずからの声で、ラジオを通じて全国民に戦争終結の詔書を放送したもの。
 - 15 西ノ浦の国民学校…現在の倉敷市立連島西浦小学校。1947年の学制改革により、現在の小学校6年、中学校3年の制度になる前は、国民学校初等科6年、国民学校高等科2年の制度であった。
 - 16 玉島女学校…県立玉島女学校。現在の岡山県立玉島高等学校。